

第三者評価結果

事業所名： にじいろ保育園和田町

A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成	第三者評価結果
<p>A-1-(1)-①</p> <p>【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。</p>	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育理念である「のびやかに育てだいの芽」は子どもの最善の利益を第一に考えており、子ども本来が持っている「生きていく力」を引き出す保育を目指し「陽だまりのような保育園」という人的環境の下、自己肯定感とたくましく生きていく力の土台作りを目指し全体的な計画を編成している。 ・保育所保育指針を基にした地域性や、子どもの家庭状況等を考慮した計画を検討し、共通理解に取り組むとともに、年齢ごとの発達過程やねらいに沿って年間・月間指導計画や表示計画を立案して保育を行っている。 ・毎月、カリキュラム会議や職員会議で意見交換をし、共通理解のもと指導計画や行事計画を作成している。 	
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	第三者評価結果
<p>A-1-(2)-①</p> <p>【A2】 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。</p>	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・湿度、温度計を各クラスに設置し、必要に応じて空気清浄機を活用しているほか、窓の開閉、エアコン、サーキュレーターを使用し、子ども達が快適に過ごせるように温度、湿度を保っている。カーテン越しに日差しを感じることができ、窓のない0歳児の保育室では照明を活用して午睡時も暗くなり過ぎないように調節している。 ・衛生マニュアルに沿って、園児が触るところの掃除、消毒を行っている。 ・家具、遊具等は安全に使える素材のものを使用し、角のあるものにはクッションカバーをつけるなどの工夫をし、全クラスにおいて時間を調節し、食事する場所と睡眠する場所を分けて生活空間の確保をしている。 ・手洗い場には正しい手洗いの仕方を掲示し、踏み台を設置し年齢に応じて無理なく手洗いができるようにしている。また、子ども達がトイレに入りたくなるよう、可愛いイラストや1回に使用するトイレトペーパーの長さを示したイラストを貼っている。 	
<p>A-1-(2)-②</p> <p>【A3】 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。</p>	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児（0～2歳児）に関しては毎月個別月案を作成し、一人ひとりの発達に合わせた計画を作成しており、幼児に関しても特別に課題がある場合は個人簿が月案の備考に記載されている。離乳食、トイレトレーニング、箸への移行などを保護者の意見や意向を確認しながらすすめている。 ・子どもが伝えようとしていることに耳を傾け自分の言葉で伝えられるよう援助したり声掛けをしたりするようにしている。 ・子ども達と応答的に関わりながら生理的欲求を満たすとともに、子どもの思いや気持ちに寄り添い子ども自ら意欲的に活動できるような声掛けに努めている。 ・褒めたり励ましたりしながら子ども達が意欲的に取り組めるような言葉がけや、否定語ではなく肯定語で話しかけるように心掛けている。 	
<p>A-1-(2)-③</p> <p>【A4】 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。</p>	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児は日中の活動の中でも午前寝が必要な場合もあるため、リズムに合わせて近くの公園や園庭に行き、日中の活動の前などで休めるように配慮している。 ・各年齢において子どもが自分でやろうとする気持ちを十分に受け止めながら、出来たときは褒めて自信につながるようになり、幼児では身の回りのことを自分でできるように保育者が手本を見せたり一緒に行うことで身に付くように行い、子どもの発達に合わせて強制することなく必要な援助を行っている。 ・体調や家庭での様子を連絡ノートや連絡アプリ、保護者との対話などから一人ひとりの日常生活リズムの把握に努め、その日の保育を進めるようにしている。 ・オムツ替えの時には「すっきりしたね」など気持ちよくなったことを伝えている。子どもが理解しやすいように手洗い、うがい、歯磨きなどの指導を行い、生活習慣の中で自主的にいれるように援助している。 	

<p>A-1-(2)-④</p> <p>【A5】 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。</p>	a
--	---

<コメント>

- ・保育室ごとに棚などに玩具が置かれており、子どもが自由時間に好きな玩具を自分で取り出し遊べるようにしている。幼児は個別にファイルがあり、お絵描きや色塗り、折り紙などを入れて自分で管理することで自分の物を大切にしよう働きかけている。
- ・牛乳パックや空き箱、トイレットペーパーの芯、画用紙の端切れ等廃材を使って、自由に発想して作っている。
- ・戸外では友だちと協力し合っている集団遊びを異年齢グループで行うことで、ルールを理解し、年長児がリーダーシップを取れるよう促し、お互いを認め合い尊重する気持ちが育つように援助している。
- ・散歩前には園庭の植物に水やりをして生長を観察したり、公園で虫に触れたりして楽しみながら自然に触れる機会を設けており、散歩中には地域の方へ積極的に挨拶をしたり公園で会った友だちと一緒に遊んだり、玩具の貸し借りなどでもできるように援助している。
- ・季節の歌をうたったり、季節に合った製作活動を行ったりすることで様々な素材や道具に触れられるようにしている。

<p>A-1-(2)-⑤</p> <p>【A6】 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
--	---

<コメント>

- ・保育時間が長いので疲れが出ないように落ち着いた環境づくりをするとともに、午前や夕方などにも必要に応じて睡眠をとることができるように配慮している。
- ・特定の保育士が関わることにより情緒の安定を図り愛着関係を築けるよう配慮しており、身体的な欲求を満たすとともに、温かき優しい働きかけにより、満足感や安心感が味わえるような保育に取り組んでいる。
- ・月齢に合わせて視覚、聴覚、触覚などを楽しむ玩具や子どもの興味に合わせた玩具を用意したり作成したりするとともに、触れ合い遊びを通して、快・不快などの表情を読み取り、優しく声を掛けながら応答的な関わりをすることを大切にしている。
- ・食事量、睡眠時間、排便、体温など子どもの様子を細かくノートに記入したり、園で行っている遊びや気に入っている玩具について伝えたりしている。また、お迎え時には園での微笑ましい姿などのエピソードも伝えるようにし、家庭での様子も聞き、情報共有に努めている。

<p>A-1-(2)-⑥</p> <p>【A7】 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
--	---

<コメント>

- ・生活に必要な基本的な習慣については、一人ひとりの子どもの状態に応じ、落ち着いた雰囲気の中で行うようにしている。子どもが自分でしようとする気持ちを尊重し、見守り、必要に応じて声掛けや手助けをするようにしている。
- ・子どもの発達や興味に合わせて玩具を定期的に見直し、入替なども行っており、好きな玩具や絵本など自由に手に取って自発的に遊んだり、片付けをしたりしやすいようにケース毎に写真を貼るなど分かりやすい工夫も行っている。
- ・子どもの自我の育ちを見守りながら、気持ちを受け止めていけるようにするとともに、友だちの気持ちに気付いたり、友だちとの関わり方を仲立ちしながら丁寧に伝えるようにしている。
- ・担任だけでなく他クラスの保育士や看護師、調理の職員とも日常的に関わる機会がある。また、毎月行われる外部講師によるおはなし会や、子育てサロンでの地域交流でも保育士以外の大人や様々な年齢の子どもとの関わりがある。

<p>A-1-(2)-⑦</p> <p>【A8】 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
---	---

<コメント>

- ・保育理念、保育方針に沿って全体的な計画を作成し、年間計画を月案、週案に落とし込まれており、年齢に応じた保育が行われている。
- ・3歳児は社会性や遊びなどに経験不足が見られトラブルとなることも多いので保育者が仲立ちをしながら、友だちとの関わり方を伝えている。
- ・4歳児は友だちと一緒に集団の中で自分を発揮できるよう、個々の得意なことを把握し、前に立って出来るような活動を行っている。
- ・5歳児は生活や遊びの中でルールがあることを伝えるとともに、相手の気持ちを汲み取れるように援助している。
- ・異年齢保育を行っているので、グループ活動を取り入れ、協力し合っている集団遊びなどができるように援助している。
- ・玄関掲示やクラスだよりなどで子どもの様子を日々保護者に伝え、クラスだよりは毎月小学校にも届けて伝えている。例年、大きな行事は地域の方の参加もポスターなどで呼びかけ、一緒に成長を見てもらう機会を設けている。

<p>A-1-(2)-⑧</p> <p>【A9】 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	b
--	---

<コメント>

- ・月案には個別配慮の欄があり、個別に配慮が必要な子どもについては記載し、カリキュラム会議にて全職員に共有して保育にあたっている。配慮が必要な子どもについては、絵カードを作り、子ども達が見やすいように提示するなどの工夫を行っている。
- ・臨床心理士に月一回訪問してもらいアドバイスを求める仕組みがあり、アドバイスを基に子ども達により良い保育が提供できるよう全職員で情報共有している。保護者には臨床心理士と相談が出来ることを玄関掲示で知らせ、必要に応じて面談を行っている。
- ・障害児保育の研修に参加した職員が、職員会議で報告し共有することで学びの機会を設けている。
- ・現在障害のある子どもの登園はないため情報を伝える取り組みも特には行っていないが、今後保育を行うことになった場合は必要な情報を知らせる取り組みを検討するとしている。

<p>【A10】 A-1-(2)-⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
--	---

<コメント>

- 一人ひとりの健康状態や遊びの状況をよく観察し、朝と昼のミーティングで職員全体に共有している。全職員が朝の様子、日中の様子を把握し、その後の保育を行うように取り組んでいる。
- 子どもの状況に応じて夕方に寝たりミルクをあげたりして生活リズムが崩れないよう配慮している。
- 異年齢で関わるうえで思いやりを持った接し方ができるよう伝えている。異年齢児で散歩に行く際には年上児が車道側を歩きリードするよう指導し、安全に活動している。乳児と幼児が合同になる際には細かい玩具などは取り除き、安全に遊べるように配慮している。
- 延長保育を利用する場合には、昼食、おやつに加え補食・夕食を用意している。
- 送迎時に保育者と保護者が対話し、その日の様子を伝え合っている。

<p>【A11】 A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	b
--	---

<コメント>

- 5歳児については就学を意識した指導計画を作成しており、生活の中で自然に身につくように援助している。
- 小学校と毎月、園だよりとクラスだより、小学校だよりを交換し、やり取りしている。
- 担任が作成した要録は園長の確認のもと、小学校に郵送している。小学校から電話の問い合わせがあった時は担任が応対し、子どもの様子を伝えている。コロナ禍で中止されているが、例年は近隣の年長児の交流会が定期的に行われており、保育士同士の意見交換、また就学前には小学校にて学校体験なども実施されていた。

<p>A-1-(3) 健康管理</p> <p>【A12】 A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。</p>	a
---	---

<コメント>

- 子どもの一人ひとりの健康状態の把握に努めており、登園時に早番が保護者に子どもの健康状態や怪我を口頭で確認し、視診している。登園時には全園児の検温を実施し、0、1歳児は午睡明けにも検温をして体調不良が疑われる子どもは臨検して降園時に保護者に伝えている。怪我をした場合は降園時に必ず保護者に伝達している。特に首から上の怪我をした場合は保護者に電話連絡し、その後の対応について相談している。
- 入園時に児童健康調査票を記入してもらい、既往症や体質、アレルギー、予防接種歴等を確認しており、個々の特記事項を全職員で共有している。予防接種状況は保護者から接種後に園に伝達してもらうように周知している。
- 看護師が保育士に対し、SIDSの勉強会や緊急時対応訓練を実施し、必要な知識・技術の習得に努めている。SIDSチェック表を用いて0歳児は5分、1歳児は10分毎に確認を行い、午睡中は顔色がわかる明るさとしている。
- 入園園面接の際にSIDSの資料を配布し、園での取り組みを伝えるとともに、自宅でも注意するように伝えている。

<p>【A13】 A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。</p>	a
--	---

<コメント>

- 健康診断（内科健診）結果は「定期健康診断」に記録している。歯科健診結果は「定期歯科健診」に記録している。どちらの健診も、保護者へは「健康の記録」にて結果を伝えている。必要時、看護師から口頭で説明したり病院受診を促したりしている。
- 健診日付近や時期に合わせて、手洗い指導、咳エチケット、歯磨き指導等の健康教育を実施している。
- 各健診の前に保護者におたよりを配布し、医師に確認・相談したいことがあれば事前に園に伝えてほしいと連絡している。歯科健診では歯科医より、その子どもに合わせた歯磨きのポイントや齲蝕歯になりやすい箇所等の指導を受け、「健康の記録」にて保護者に伝えている。

<p>【A14】 A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。</p>	b
---	---

<コメント>

- 「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」に基づいてアレルギー児の個別対応を行っている。アレルギー児は年1回以上かかりつけ医を受診し、生活管理指導票や血液検査結果を園に提出してもらい、治療方針の確認を行っている。結果についてはミーティングにて全職員で共有する仕組みがある。
- 食物アレルギーが発覚した場合、保護者・園長・保育士・看護師・栄養士と面談を行い、かかりつけ医の治療方針や園での対応方法、有症状時の緊急時対応方法等について話をしている。アレルギー児のトレイ・皿を分け、名前、アレルゲンのプレートを用意し、誤食がないよう十分配慮している。
- 看護師より職員向けにアレルギー疾患や慢性疾患等についての勉強会を行い、必要な知識・技術の習得に努めている。
- 現在、配慮の必要なアレルギー疾患や慢性疾患等をもつ子どもがいないため、他の子どもや保護者に向けての取り組みは行っていないが、職員への勉強会の際には保護者支援や子ども向け（疾患について）の絵本等の情報提供をしている。

A-1-(4) 食事	第三者評価結果
<p>【A15】 A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。</p>	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・褒めたり励ましたりして子どもが自分で食べようとする意欲を大切に食卓の雰囲気が楽しくなるよう配慮している。 ・0, 1歳児クラスでは手掴み食べを大切に、スプーンを使って食べる際は一口で食べられる量を乗せて自分で口に運べるように配慮している。2歳児以上のクラスでは、食器の持ち方や箸の持ち方、マナー等についても伝え始めている。 ・保育士は苦手なものでも一口は食べてみるよう子どもに勧めている。食べきれないものは減らして、食べられたという達成感を得られるよう配慮している。 ・メニューの確認を子どもと一緒にしたり、食に関して子どもが疑問に思ったことを調べ、紹介することで関心を持ってもらえるようにしている。 ・園内掲示、給食だより等を通して園で行っている食育や子ども達に好評だったメニューを伝えている。また、保護者と直接話したり連絡ノートを通じて家庭と連携を取るようになっている。 	
<p>【A16】 A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。</p>	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月各クラス担任と給食について話し合う時間を設け、料理の形状や大きさ、味付けなど、喫食状況を聞いてより食べやすくなるよう柔軟に対応している。 ・日々の残食をチェックしたり、子どもから話を聞いたりして子ども達の好き嫌いを把握している。苦手なものは量を減らしたり、形を変えてみる等の工夫をしている。 ・献立は運営法人の作成した2週間サイクルで提供しており、季節感のある食材が配慮されている。園独自としては食欲がわくように色味や切り方を意識して盛り付けに工夫をしている。行事食では、七夕に天の川に見立てた七夕そうめんを取り入れたり、恵方巻や七草がゆを取り入れたりしている。誕生日会の日はおやつを子ども達の喜ぶメニューにするなどの工夫をしている。 ・幼児クラスには毎日昼食前に栄養士や調理担当者が献立の紹介をしに行き、食事の様子を見ている。 ・調理室ではマニュアルに基づき、衛生管理に努めている。 	

A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭と緊密な連携	第三者評価結果
【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳や連絡アプリを用いて乳児は毎日保護者と情報交換をしている。幼児は週に1, 2回、必要に応じて同様の手段で様子を伝えている。また、全クラス玄関の掲示板でその日の活動と翌日の予定を知らせている。ホームページのブログでも子ども達の様子を写真入りでわかりやすく伝えている。 ・年2回の懇談会で各クラスの担任より保育内容について伝えたり保護者からの質問に答えたりしている。昨年度から現在にかけてはコロナ禍のため懇談会の開催を中止しているが、担任よりどのように過ごしているかを写真つきのおたよりで伝えている。 ・運動会や生活発表会など、行事を通して成長を感じてもらえるように取り組んでおり、練習過程についても連絡帳や掲示板で知らせている。年2回保育参加の機会も設け、希望する保護者には実際に保育の中に入って見られるようにしている。 ・大きなケガや病気をした時、トラブルがあった時の他、特記することがあれば個人ファイルの補助簿に記録している。 	
A-2-(2) 保護者等の支援	第三者評価結果
【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>送迎時の玄関で連絡事項だけでなく、園での様子や雑談などでコミュニケーションを取ることを心がけている。定員30名の小規模園であるため、全職員が子どものその日の様子を把握し伝えられるよう努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳での相談は職員間で内容と返答を共有し、連絡帳で返答しており、必要に応じて担任や園長から送迎時に口頭で対応したり、時間を設けて事務所や空いた保育室でじっくり話をできるようにするなど、保護者の状況に応じて柔軟に対応するように努めている。 ・小規模園である利点をいかし、保護者一人ひとりについて職員が熟知し、きめ細やかに対応できるよう心掛けており、相談内容に関して、園長・主任に助言を受けたり、ケース会議の議題に出し、職員全体で対応を考えたりしている。 ・連絡帳での相談はコピーして記録し、口頭の相談は補助簿に記録している。臨床心理士に相談した場合は相談記録書を作成している。 	
【A19】 A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎朝看護師が体の様子を確認する他、送迎時に雑談をしながら家庭での様子を聞くなど必要に応じてさりげなく保護者に確認するように努めている。 ・虐待の可能性を感じた場合は主任や園長に相談し、ケース会議を行って情報共有や対応協議を行う体制としている。 ・関係機関の担当職員と気になる子どもについてこまめに情報交換を行い、話したことについては補助簿に記録している。 ・運営法人作成のマニュアル「人権」に「虐待について」の項目があり、対応フローも示されている。入社前の運営法人研修において全職員が虐待について学んでいる。 	

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	第三者評価結果
【A20】 A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日誌、週案、月間指導計画書、年間指導計画書にて記録を行い、それぞれの自己評価欄にて日々自らの振り返りを行い、会議で内容について話し合う仕組みがある。 ・月間の個別指導計画の項目には、ねらい・内容・子どもの育ちと配慮していて、子どもの育ちや意欲、取り組む過程などを重視しており、週末や月末など、定期的に振り返りを行っている。 ・職員会議やカリキュラム会議で自己評価を職員間で共有したり意見を交換したりすることで、学び合い意識を高めている。 ・月間指導計画、児童票、発達経過記録、年間指導計画、週案等の振り返り部分の指導を園長と主任で二重に行い、それを反映して次回に活かせるようにしている。 ・園の自己評価「にじいろの保育」は職員会議の中で振り返りを行い、周知し認識して保育にあたるようにしている。 	